キャリア教育で学校を変える。教師が変える。

ラこそ、試される 世のためたれ」の精



安積高校を経て、2010年福島高校に赴任。 業。足立区立第四中学校、福島県立磐城農業高校、石川高校、業。足立区立第四中学校、福島県立磐城農業高校、石川高校、

文/堀水潤 撮影/渡邉力(60を除く)

うのが教職員の共通した思いだ。

い訳に、子どもたちの進路実現の可

を与えている。そうした「ハンデ」を言

機感をあおる報道も生徒の心に影響

能性をせばめることは避けたい、とい

生 仮教室で1カ月経過」「仮設校舎 の放射線量高い値 立入禁止へ」「1年 着々と」… に宿泊」「福高 避難所に指定」「側溝 「10名帰宅できず。停電のなか本校 今年4月から7月にかけ、立て続け

が伝わってくる。 した」というだけあり、詳細かつ具体 的な記述からは当時の緊迫した様子 だ。編集委員の斎藤航君(2年)日く に4回発行された福島高校(以下、福 高)の校内新聞「梅章」号外の見出し 未来への保存のため、記録性を重視

進路指導部 福島県立福島高校 副部長

の授業など、依然として支障は多い の音が漏れるプレハブの仮設校舎で

常性を取り戻してきた。しかし、隣室

放射線という目に見えない不安、危

田伸一が見聞きした同校の取り組み の進学校の生徒と教職員は、震災以 を、SSH担当教員らの証言を交え 科の教員で、進路指導部 副部長の浜 降、何を考え、どう行動したか。国語 -ル)としての活動も盛んな、県下随 SSH(スーパーサイエンスハイスク

れ」を体験した浜田は、揺れがおさまる 経験したことのないほど大きく、長い揺 3月11日の6時間め、進路指導室で ながら紹介する。

それから数カ月を経て、同校は日

ていたものの建物自体は無事だった。

さ、渡り廊下の壁はところどころ崩落し

自力での帰宅だ。耐震診断でD判定、震度6で崩壊す

教職員によれていたものの建物をできる可能性ありと聞かされていた古い校舎

を、帰宅できる可能性ありと聞かされていた古い校舎

を、帰宅できる可能性ありと聞かされていた古い校舎

その4棟で物理を教えていた原尚志は、地震発生の瞬間を鮮明に覚えている。は、地震発生の瞬間を鮮明に覚えている。「緊急地震速報でしょう。授業中突然、生徒の携帯電話がいっせいに鳴りだしました。と同時に、大変な揺れに襲われたのです。左右に大きく振られる感じで、いのです。左右に大きく振られる感じで、いのです。左右に大きく振られる感じで、いのです。左右に大きく振られる感じで、いのです。左右に大きく振られる感じで、いから、バシッという音とともに壁に亀裂から、バシッという音とともに壁に亀裂が入ったときは、さすがに恐ろしくなりました」

揺れがおさまり、校内放送が入ると、生徒は雪の降る校庭へと避難した。 「騒いではいましたが、バカ騒ぎとかではなく、迅速に落ち着いて行動していました」と、そのときの様子をふりかえるのは阿部翔太君(3年)。原らの指導のもとプラズマの研究を進め、学会など大舞台でも物怖じせず発表する生徒だ。

滞のなか家路を急いだ。 に残った。郡山から新幹線で通勤してい た浜田は同僚の車に4人で同乗し、大渋 に残った。郡山から新幹線で通勤してい

「やっと帰宅したところで電気も水も不 通です。自然災害になじみのない土地だ けに、こんなことが実際に起こるのかと 不思議な気分でした。そんなところに飛 び込んできたのが水素爆発のニュースで び込んできたのが水素爆発のニュースで

長いってなす術はない。二人の子だからといってなす術はない。二人の子をもを妻の実家に預けるため、新潟まですることが親としてできる最低限のことであった。その間も、福高周辺では大変であった。その間も、福高周辺では大変であった。その間も、福高周辺では大変であった。その間も、福高周辺では大変が県の避難所に指定され、市内在住の教が県の避難所に指定され、市内在住の教が県の避難所に指定され、市内在住の教

長の神田亮」は残念そうに話す。 長の神田亮」は残念そうに話す。

靴、マスクで身を固めた人が多かった。蛇の列には、雨でもないのに雨合羽や長は3月16日だ。臨時の高速バスを待つ長浜田が震災後初めて学校へ向かったの

その日は、延期されていた県立高校の入試合格発表日。合格を喜ぶ中学生の入試合格発表日。合格を喜ぶ中学生の表情を見たとき、浜田は一人感じていた。 「こんな状況下でも明るい生徒の姿を見るにつれ、この子たちを何とかしなけ見るにつれ、この子たちを何とかしなけらないと思いました。原発のある県に住みながら、また科学と倫理の問題を認識しながら、対方を過信し、安全だと信じていた、システムを過信し、安全だと信じていた、あるいは信じたふりをしていたことに、あるいは信じたふりをしていたことに、大人として強い責任を感じました」

「SSHに興味があり、何としても福高いたのであろう。不急の外出を避け、電話いたのであろう。不急の外出を避け、電話いたのである。

たです。ただ、そばで母と妹が泣きだしに入りたかったため、もちろんうれしかっていい。

てしまったときは、おろおろしてしまいました。母が言うには、震災と原発で失意のどん底にあるなかでぼくが合格したという喜びとともに、合格できたのはいいけれど、いったいこの先どうなるのだろうとれど、いったいこの先どうなるのだろうという不安。この両方の感情がまざり、気持ちがたかぶったらしいのです。自分のことを深く考えてくれている家族の存在とを深く考えてくれている家族の存在をうれしく感じるとともに、親も強いわけではないので、いざというときは自分が家族を守らなくては、なんてことを無力ながら考えたりしていました」

放射線という見えない恐怖

それから始業式までの約1カ月、教員 それぞれに生徒の状況把握や新年度の 準備が進められた。県教委の決定で人事 異動が延期され、4月に入っても前年度 と同様の体制で臨めることは現場として はありがたかった。浜田は、全国の教員仲 はありがたかった。浜田は、全国の教員仲

を早く生徒に伝えたい一心でした」「学校再開のめどがたたない時期でし

運営だ。なかには、避難してきた市民にて最大で500人が生活した避難所のて最大で500人が生活した避難所の





と説明し、ひきとってもらうといったつら ばく検査後においでいただけませんか ば中に入れません。申し訳ないですが被 い役回りも、当初はあったという。 対して「スクリーニングを受けていなけれ

も増えるなか、残っている者の葛藤は日 胸の中で押し殺しています。避難する人 がら、このままとどまってよいのか、現場 ましに大きくなります」 を離れ、避難してよいのかという葛藤を けで知人にこんなメールを送っていた。 超えたものがある。浜田は、3月19日付 ないものを相手にする緊張感は、想像を 「今、福島の人々は支援や仕事を続けな 放射線、放射性物質という得体のしれ

ただ、私たちも公務員ですから、避難し 「葛藤は全教職員にあったと思います。 つけ加えるように、物理の原も言う。

> てきた人がいるのに自分らが現場を離れ ていいのかという気持ちはありました」

> > 40人弱だから相当な数だ。生徒会の

れぞれの立場で役割を果たそうとして

ボランティアだけではない。生徒はそ

と感じていました」

いました。レベルが一段高いところにある はないかという純粋な気持ちで行動して ましたが、生徒は、何か役に立てること

学校が好きだし、早く学校に戻りたいん 阿部真悠さん(2年)は、「やはりみんな

だなと感じました」と、当時を思い出す。

そして、4月18日に始業式が、翌19日

てください」という言葉は、ありがたいと と皆さんの家族を優先に考えて行動し り、急を要する事態が生じたら、皆さん せられた、「もし今後、新たな爆発が起こ 同時に、緊迫の度合いを高めた。 朝の打ち合せで冨田昭夫校長から発

花咲きみのりて世の為立たむ

まった。生徒数は新2・3年生あわせて6 いを呼びかけたところ200人近くが集 学校のホームページを通じて生徒に手伝 室の入れ替え作業が行われた。その際、 た3・4棟から物品を運び出すなど、教 翌12・13日には立ち入り禁止となってい その避難所も4月11日には閉鎖され、

何のために学ぶのか。

はり雰囲気が違うんです。当たり前のこ とですが、学校というのは生徒なのだな には入学式が執り行われた。 「器が大勢の生徒でいっぱいになると、や

認めた保護者の方々を尊敬しました」 線のリスクもあり、簡単な決断ではなか ンティアに参加していたようです。放射 ったと思いますが、子どもたちやそれを とつくづく思いました」(浜田 「休みの間、各クラスで10人前後はボラ 浜田は生徒との対話をよろこんだ。

も、多くの生徒から手伝いの申し出があ 実は学校が避難所となっていたとき

社会に生かすのか

の前のジョブをこなすことに追われてい

が再開したときに備えようって」 たりして、記事をあたためておき、学校 できることはある。近所の避難所を訪れ ルでやりとりしていました。休みの間も いた。校内新聞『梅章』の斎藤君は言う。 一震災の1週間後くらいから委員とメー

のことを浜田は誇りに感じた。 剣に考え、世のために行動した生徒たち 難ななかにあっても、するべきことを真 と刻まれている。その精神に違わず、困 歌の一節「花咲きみのりて世の為立たむ」 是としてきた。入り口の学生像には、校 かであれ、勉励せよ、世のためたれ」を校 1898年の創立以来、同校は「清ら

業したばかりの森谷浩幸君が総代とし 施された東京大学の入学式。福高を卒 た4月12日は、大幅に規模を縮小して実 おりしも多数の生徒が学校に駆けつけ ランティアを希望する場合は市役所で

教員に生徒を組織する余裕はなく、ボ った。だが、避難所の運営で精いっぱいの

登録をするよう促していた。原は言う。

「われわれ教員は右往左往しながら、目

浜田は、福高に赴任した1年ほど前の う努力を怠らず有意義な学生生活を送 ることを誓います」とあいさつしていた。 ることを誓います」とあいさつしていた。

ことを思いだした。

ではなく、その後実をつけることで人々の 使命だと感じたことを覚えています」 うした人を育てることが、ここでの私の ではなく、社会のために力を生かす。そ 役に立つように、大学に合格して終わり は運命的でした。梅の花が咲いて終わり て世の為立たむ』の文言と出合ったこと では駄目だ。その先も見据えた指導をし 話を聞くようになり、大学に入れるだけ として県内外の多くの先生方に出会い、 んなおり福高に異動し、『花咲きみのり 力をどう役立てるかということです。そ なくては、という気持ちが強くなっていま に社会とかかわっていくか、そこで自分の した。その先とは何かといえば、どのよう 前任校での最後の2年、進路指導主事 その点、浜田が心配したのは、そうし

> をった。 進路指導部長の神田も言う。 なった。 をの分、教育の質を落とすわけに がないというのが教員の共通の思いと がないというのが教員の共通の思いと

うという意識が校内で高まりました」ういうときだから、負けずに立ち向かお進学希望を実現しないといけません。こす。そうした状況でも、一人ひとりの高い「学習環境は間違いなく悪くなっていま

福高グラウンドスキャン作戦

ただ、いくら生徒や教員が頑張っても、

生徒の安全を第一に考える必要があった。うにかなる問題ではない。学校としては放射線に関しては気持ちのもちようでど

知らされていなかったのですから」知らされていなかったのです。それは正しい疑問でした。私でさえどう測定されたか別らされていなかったのです。それは正しい疑問でした。私でさえどう測定されたかのらされていなかったのですから

それがきっかけとなり5月2日、SS部の生徒や教員らが40台の線量計を使い、の生徒や教員らが40台の線量計を使い、ラウンドスキャン作戦」が実施された。すると、予想どおり地形や水はけなどによって値に差がでることを確認。おおむねて値に差がでることを確認。おおむねて値に差がでることを確認。おおむねて値に差がでることを確認。おおむねて値に差がでることを確認。おおむねて値に差がでることを確認。おおむねて値に差がでることを確認。おおむねて値に差ができまり地形や水はけなどにより最大60μ/hというま常に高い値を示し、立ち入り禁止および除染の措置がとられた。

ほか、放射線の遮断実験などを行った。 層マンションや近隣の山での測定を続けた 射線班の生徒らは原らの指導のもと、高 りになっている。

「生徒ながらたくましさを感じましではないが、感じることは多かった。」
浜田は、こうした活動に参加したわけ

できることからやる。

不満や愚痴は

生徒もいた。保護者からは不安や要望の

を教室代わりにしなければいけなかつラスに、第2体育館、視聴覚室、同窓会館

仮設校舎が完成する夏まで、80人を1ヶいられることになった新入生だ。彼らは

た校風になじむ間もないまま、苦労を強

た。特に体育館は音が響き、体調を崩す

力にならない







た。自分たちのまわりで起こっている問題に対して、自分たちのこととして受け止め、それを解決するために行動できることはすばらしいことだと思います」

こうした活動は反響を呼び、新聞各紙で紹介された。もちろん校内新聞『梅葉情をみんなにわかりやすく伝えることがぼくたちの仕事ですから」と、さらとがぼくたちの仕事ですから」と、さらりと言う。

その『梅章』の7月1日付け号外には 高祭」なる記事が掲載されている。福高 高祭」なる記事が掲載されている。福高 の文化祭は演劇などが盛んだが、安全面 の配慮からクラス発表と一般公開が中止 となった。その代替として7月2・25日に となった。その代替として7月2・25日に となった。その代替として7月2・25日に

に信任された阿部真悠さんは言う。に信任された阿部真悠さんは言う。「震災で制約があるなか、さまざまな行事をできるだけ例年どおり実施していくの要望の間をとりもつことに苦労しましたが、最終的には『良かったよ』という声を多くいただき、ほっとしています」

英国研修とSSH全国発表

月の提案により、総合的な学習の時間にに、地学、物理、生物など理科教員がそれに、地学、物理、生物など理科教員がそれに、地学、物理、生物など理科教員がそれに、地学、物理、生物など理科教員がそれに、福島の学校でありながら、放射線を授影響について話す特別授業が開催された。

実施されたものだ。扱うテーマがテーマだ 事実を語ってもらうという案もあった。 事実を語ってもらうという案もあった。 「けれど、自分の科目に関することは直 接自分の口で伝えたいという意見が多 数を占めました。私も、『総合学習の意 数を占めました。私も、『総合学習の意 数を占めました。私も、『総合学習の意 動を占めました。私も、『総合学習の意 ある浜田は言う。

意味がないという意見です。結局、『放射意味がないという意見と、教科書的な知識を伝えるだけならわざわざ生徒を集めて伝えるだけならわざわざ生徒を集めて伝えるだけならわざわざ生徒を集めて伝えるだけならわざわざと しまで はいか は かいという 意見です。 お しいの かわれわれにもよくわかりません。 その ため、個人的な思いが先行しすぎてはい ため、個人的な思いが先行しすぎてはいる。

に苦しんだ君に少しでも合わせたい。日

「イギリス人のルームメイトから『災害

「何がしたいのか」から

何をすべきか」、

-「何ができるか」へ

課外活動も活発になった。前述の阿部郡 太君は7月21日から8月5日まで 郷太君は7月21日から8月5日まで "UK-Japan Young Scientist Workshop" と、現地高校生と天文学や放射線などのと、現地高校生と天文学や放射線などのと、現地高校生と天文学や放射線などのと、現地高校生と天文学や放射線などの と、現地高校生と天文学や放射線などの しょう はいいる。

2年生用の仮設校舎がついに完成した。ドの表土除去が行われ、8月5日には1.7月21日から8月10日にかけてグラウン

「現地での原発の議論は冷静でした。正しい情報は入りにくいものの情報を取捨 選択する余裕があるように感じました」 選択する余裕があるように感じました」 「私は文系ですが、文理に関係なくいろいろな観点から物事をとらえる重要性いろな観点から物事をとらえる重要性を実感しました」(以上、宮川将一朗君) 「現地の高校生は地震のメカニズムしか学んでいないようでしたが、日本では被学んでいないようでしたが、日本では被学んでいないようでしたが、日本では被学んでいないようでしたができました」 いうスタイルをとりました。生徒にとって

と前置きをしたうえで各教員が語ると

にもいい機会だと思いました」(浜田)する力が必要になるわけで、進路指導的は、情報を受け、自分自身で考え、判断

夏になると震災関連の工事が本格化。

あり、これから話すことも絶対ではない。線の影響についてはさまざまな考え方が

すから雄大もラクにして』と言われ、感 銘を受けました」(以上、佐藤雄大君) 本の部屋のようにぼくは靴を脱いで過ご

ていたからです 単なる自然科学的な興味や関心を超 ことが社会に役立つことになると思って 島高等学校の放射線の状況」というタイ で開かれた。当初は阿部君らが参加を が集う「SSH生徒研究発表会」が神戸 え、社会的な意義を見いだして活動をし らをみて、私は頭が下がる思いでした。 います』と、インタビューにこたえている彼 とか彼らにデータをまとめてもらい、発 とになったとき、私の立場としては、なん きょ2年生の放射線計測グループが「福 予定していたが英国研修のため断念。急 たわけです。けれど、発表を無事に終え、 表に間に合わせなければと内心焦ってい トルでポスター発表を行うことになった。 一連の流れを原は次のようにふりかえる。 収集したデータをこうやって公開する 「阿部君の代わりに彼らが発表するこ 8月11・12日には、全国のSSHの代表

進路指導部の取り組み

ら、進路指導部でもさまざまな取り組み スでは、生徒はやはり震災や放射線、復興 を実施した。大学訪問やオープンキャンパ SSHや総合学習と連携をとりなが

> 自覚できたと思います」(浜田) 分との溝を埋めるための場であることを はかないません。けれど、大学で学ぶこと を再生しようと思っても、高校生にそれ に関連した研究に刺激を受けたようだ。 やりたいことと、それができない今の自 と実感できたはずです。大学とは、将来 によってそれが可能になるかもしれない 「今の段階では、例えば汚染された土壌

いることを感じています」(浜田) ち、問題意識が生徒のなかに醸成されて 問がとぎれない。なかには「福島に住み、 では、文系・理系志望の生徒を問わず質 学の専門家などを招いた。こうした講話 うな、伝えたいとか、問いたいという気持 任があるのでは?」という発言もあった。 これまで原発を容認してきた私にも責 演会」では医科大学の学長や宇宙物理 「職業観育成講話」「最先端研究者講 「そうした、内から湧き上がってくるよ

向かうための学びを意識するはずです。 準でしたが、震災以降、それをいかに社 画も、前倒ししたり拡充したりしている。 きたいと、ある程度明確になれば、そこへ なった気がします。こういう自分になり みたいなところが進路選択の大きな基 たい、そして少しでも社会とかかわってい 会に結びつけていくかという視点が強く 「これまでは、自己実現、自己の充実感 例年なら後期に実施していたような企

> のかという価値観に変わり始めているこ 導が、自分は何をすべきか、何ができる とに、浜田は手ごたえを感じている。 ら始まることが多かった今までの進路指 会を逃したくありませんでした」(浜田) 自分は何がしたいのかと問うところか

こそ困難を抱えているともいえる。 は沿岸部の学校の比ではないが、だから 校運営がなされている。実害という点で ている福高は今、いつけんすると普通に学 「日々を普通に過ごしながら、しかし、 福島第一原発から3キロメートル離れ

います。本校より大変な学 つの困難さがある気がして ばなりません。それはまたべ だとも思っています」(浜田) から積極的に発信するべき 語れないわけで、自分の立場 として震災や原発について っぽうで遠慮した物言いを に言い聞かせていますが、い ような発言は厳禁だと自分 校はたくさんあり、わかった えて教育活動をしていかね 何十年後にあらわれるかも していると、自分たちの問題 しれないリスクに不安を抱 その点、生徒の発言はスト

そうした空気ができているのだから、機

レートだ。

と思っています」(阿部翔太君 それが、他の被災地の復興にもつながる もりです。まずは福島がしつかりする。 が強くなってきたからです」(佐藤雄大君) い。志望が経済から法学系に変わってき 決からではなく、別の観点から模索した せん。ぼくは福島の発展を風評被害の解 わるだけに簡単に解決するとは思えま たのも、国の代表として働きたい気持ち ーとしての核融合発電の研究を進めるつ には大勢います。自分は次世代エネルギ 「この経験を生かそうとする人が福島 「風評被害は深刻ですが、人の心がかか

